

演題 10. 全自動 EIA 装置 AIA-1800 による高感度
PSA の検討

○淵上孝一 五十嵐理恵 扇田郁美 大古明美 立石典
子 高梨法子 山田奈美恵 梅澤理枝 桐谷陽子 平野
繁治 磯部みどり 西川栄子 上野芳人(玄々堂君津病
院 臨床検査科)

【はじめに】

前立腺特異抗原(PSA)測定は、前立腺癌の早期発見
に有用なマーカーであることは知られている。特に
前立腺摘出後の経過観察では、再発の早期発見のた
めに、高感度の PSA 測定が必要となる。

今回われわれは、高感度での PSA 測定の基礎的検
討をおこなったので報告する。

【対象および使用機器】

①当院泌尿器科および糖尿病外来通院中の患者を対
象とした。

②使用機器

測定装置：全自動 EIA 装置 AIA-1800 (東ソー)

測定試薬：E テスト「TOSOH」II (PSA II)

【方法および結果】

①同時再現性：3 濃度の試料をそれぞれ連続 10
回測定した。結果は CV (%) 2.0~2.6 であった。②日
差再現性：①と同じ試料を 20 日間測定した。結果は
CV (%) 2.3~2.6 であった。③他の高感度法との相
関：本法(x)と他法(y)との相関は $y=1.162x-0.171$ 、
 $R=0.993$ であった。④共存物資の影響

【考察およびまとめ】

本法は同時再現性、日差再現性とも良好な結果であ
った。また、本法と他法との高い相関が認められた。
さらに、検出感度、直線性等については今後詳細に
していくつもりである。本法は、測定時間が約 20
分と短時間である。迅速性があり有用性が高いと考
えられる。

連絡先：0439-52-2366